

しんあい

発行日：平成 21 年 5 月 9 日

●特別養護老人ホーム裕生園
●ケアハウス シヤトル
●グループホーム たちばな
●きんかん 小規模多機能ホーム
〒880-2221
宮崎県宮崎市高岡町内山 2407-3
TEL.0985-82-0196(代)
メールアドレス
yuseien@qtnet.ne.jp

発行：社会福祉法人 信愛会 ホームページ <http://www.sin-ai.or.jp>

第
22号



平成 21 年 3 月 18 日に宮崎市生目浮田地区にオープンした "きんかん小規模多機能ホーム"

西田池の対岸から見た "きんかん"

「安心、安全な生活を提供する施設づくり」という事を心がけておりますが、昨年ほどこの事が世間を騒がせた事はなかったと思います。中国からの輸入品の食材や国内大手業者の「偽」の食品、賞味期限問題等、食に関する事が多くマスコミを賑わしました。集団給食も外食産業への委託が多くなりつつありますが、私共のグループでは食に関しても力を入れており、自前のセントラルキッチンで衛生問題は勿論、食材も顔の見える業者から仕入れておりますので、今までのやり方に安心し、自信を持ちました。

また、誰もが予想だにしなかった経済恐慌が吹き荒れて、資本主義経済が始まって以来の事として世界中の人が不安感を持っており、当施設利用者の家族や職員の家族等に影響が出ています。介護職員の不足で外国人労働者に頼る事になった矢先に経済恐慌でリストラ問題が起こり、毎日がすごいスピードで変革しております。この不況を乗り切るためにも「ピンチをチャンスに」と思い、また地域ケアの中心となるよう地域密着型の事業を開設する事になりました。昨年準備の段階では今のようなきびしい時代になるうとは想像もしていませんでしたが、今こそ雇用問題、不況を乗り切るためにも新しい事業で小さい小さい手を差し伸べる事ができれば幸いと思いつながら、今年はずっと逆風に耐えながら、職員一同しっかりと乗り切っていかなければならないと思っております。



裕生園園長
辰元 圭子

しんあい

たちはなデイサービスセンターオープン!



木造で木のぬくもりのある
かわいいデイサービスセンター

去る平成二十年十一月一日に、宮崎市高岡町の辰元グループ敷地内に「たちはなデイサービスセンター」がオープンしました。認知症のある方を対象としたデイサービス事業所です。宮崎市内に在住の方を朝夕送迎して、日中を楽しく過ごしていただいています。定員十二名、月曜から土曜までオープン。
お問い合わせは
〇九八五―三〇―九〇三三 長友まで

福富ヒロノさん 百歳おめでとうを祝います



前列中央がヒロノさん。
その両隣にご家族。後列右側に
加藤副市長、左端が辰元園長

裕生園入居中の福富ヒロノさんが平成二十一年二月九日に百歳の誕生日を迎えられました。宮崎市の加藤副市長がお祝いに駆けつけて下さり、御家族、職員と一緒に長寿のお祝いをしました。現在、裕生園の百歳以上の方は、女性として県内最高齢の植村コトさん（百十一歳）、鈴木サエさん（百二歳）、そして福富ヒロノさんがいらっしゃいます。やっぱり女性の方が長生きですね。男性陣も頑張りましょう!

毎日新聞に辰元グループ取材の 大型企画連載中



連載40回に迫る大型企画
(進行中)

平成二十年八月から毎日新聞宮崎版に、辰元グループの各施設・病院を取材対象にした記事が連載されています。題して『介護施設で老いを考えた』。毎日新聞の宮崎支局長がたまたま訪れた高齢者医療福祉の複合施設で、介護の必要となった方達への介護を初めて目にし、その驚きと発見を元に、取材や自分の勉強を通して得たものを新聞記者としての立場から書く、というものです。職員へのインタビューも多く交え、現代日本の介護の世界の現状を深く掘り下げていく大型企画となっております。

介護報酬 初のプラス改定へ



夜間職員研修での「コマ

平成二十一年四月から、介護報酬（介護サービス事業者が国保連合会を通じて得る報酬）が初めてプラス方向に改定されます。平成十二年に導入された介護保険制度ですが、過去何回かの報酬改定では常にマイナス改定でした。その間にサービスの質の向上に対する国民や厚生労働省の要請は強まり、業務が複雑化・専門化し、多くの人が介護職を離れて行きました。国はこの事態を憂慮し、今回の初めての増額改定へとつながったわけです。これで介護職離れに歯止めがかかるかどうか。日本の介護力維持・向上にとって正念場は続きます。

きんかん 小規模多機能ホーム



正面玄関。「か」の文字のくの部分がきんかんの実になっているのわかるでしょうか

平成二十一年三月十八日、宮崎市生目の浮田地区に「きんかん小規模多機能ホーム」がオープンしました。「きんかん」という名前は、インパクトが強いらしく、一度聞いたら忘れないと地域の方や利用者の方からは好評です。

小規模多機能型居宅介護はその名称のとおり、規模は小さいですが、デイサービス、ショートステイ、訪問サービスといった多くのサービスを機能を持っています。これらのサービスを、利用者の状態や希望に応じて柔軟に組み合わせ提供することにより、在宅生活の継続を支援する事業所です。住み慣れた地域で、顔なじみの職員から三百六十五日、二十四時間サービスを受けることができます。

登録定員は二十五名（一日あたりの利用定員は、デイサービス十五名、ショートステイ九名）で、宮崎市内の方が利用登録できます。信愛会として初めて旧高岡町以外の地でのサービス事業所となりますが、地元の方たちの信頼を得ることができるよう精一杯努力して参ります。

お問い合わせは
〇九八五―七三一―八八― 中岩まで



関係者が出席して落成式の神事が行われました

新築のきんかんに遊びに来た
裕生園の入居者の皆さん



宮崎市浮田に

うきた

「きんかん小規模多機能ホーム」オープン!

きんかんの窓から見える
満開の桜と西田池

祭り



ボランティア
交流



楽しい
生活



秋の
遠足



敬老会





クリスマス



明るく
園生

外食



園外食



運動

グループホーム たちばな



グループホームたちばな管理者
長友 美紀

昨年の十一月にオープンして早三ヶ月が経過した「たちばなデイサービスセンター」も日々明るい笑い声に満ちあふれています。認知症デイサービスとして、相談員、看護師各一名、介護職員二名の計四名の職員が毎週月曜から土曜まで送り、サービス提供時間の朝九時半から午後四時までで会話、入浴、昼食、リハビリ、レク等のケアに取り組み、認知症であっても利用者の方が可能な限り御自宅で自立した生活が送れるように、また御家族の介護負担軽減に支援できるよう必要な日常のお世話や機能訓練を行っています。

一般のデイサービスとちがう点は、グループホームと同じく少人数で家庭的な雰囲気の中で、認知症の利用者の一人ひとりの個性を引き出し、生かす個別ケアを行い、ゆっくり向き合っていることで認知症も遅延でき、日々穏やかに過ごされるようになっていけます。人生の先輩である利用者の方々に、常に尊敬の念をもって接し、心のケア（精神面）に重点を置くよう職員も日々のケアに心掛けています。利用者の方々も得意なことや役割分担をすることで自分の行動に自信がつき、活きとした姿がみられ、入浴拒否やケアへの抵抗も軽減され、ユーモアたっぷりに会話が弾み、グループホームの利用者の方々との交流の輪が広がっています。ある利用者の方が日々口癖のように「笑う門には福来たる」と「笑顔にはお金はいらんとやから」と職員に言いか聞かせられるように話されます。認知症だから何もできない人、とレッテルを貼り決めつけるのではなく、ケアする側の「言葉掛け」と「気付き（発想の転換）」で無限の可能性が広がります。

これからも職員一人ひとり、笑顔と心の余裕をもって地域の人々に愛される地域密着型施設として真心のこもったケアに励んでいきたいと思いません。

仲間入り たちばなデイサービスセンターが



人と人とのふれあいを大事にしたい



きんか 小規模多機能ホーム管理者
中岩 哲也

私は、昨年三月に他の法人から転職し、信愛会でお世話になりました。これまで身体障害者や知的障害者の施設など、福祉の仕事に携わって二十六年になります。信愛会の中では一番の新米ですので、新たな気持ちで頑張りたいと思っています。さて、平成二十年度の信愛会最大の出来事は、二つの新規事業を開設したことでしょうか。昨年の十一月、敷地内に認知症対応型「たちはなデイサービスセンター」を開設し、また、三月には浮田に「きんかん小規模多機能ホーム」がオープンしました。そして、この両事業の開設準備を担当させていただきました。きんかんの開設と同時に管理者兼介護支援専門員として着任しました。信愛会が生目・浮田地区に初めて事業展開しますので、期待と不安でいっぱいですが、その基盤を作るためにも、人と人とのふれあいを大事にし、地域の方たちが気軽に立ち寄って交流がもてる、地元で根付いた頼られる施設にしていきたいと思えます。

今後も、利用者の皆さんとのふれあい、信愛会に関わって下さっている皆さんとのふれあい、職員とのふれあいを大事にし、より一層地域の方々から頼りにされる信愛会、魅力ある信愛会となるよう、微力ではございますが、頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

裕生園の職員になって



裕生園介護主任
甲斐 ミツ子

私は他の特養で約二十年勤務し定年退職をしましたが、自分の中で高齢者介護の炎が消えずにいる事に戸惑いながら裕生園にご縁があり、再び介護の仕事に携わる事になりました。入職三ヶ月で介護主任という重責を背負う事になりました。以前の施設とはまったく違う環境の中、責務に押しつぶされそうになった事もありました。幸い私はこれまで周囲の人達に恵まれており、ここ裕生園でも園長を始め、周囲の方々に助けられています。この数ヶ月で神様から与えられたとしか言いようのない多くの試練がありました。けれども、それらも多くの人に支えられ、乗り越えられそうです。長年介護に携わり、無意識のうちに芽生えていた理念を若い職員に伝えたいとの思いで日々の業務に追われております。それは笑顔で入居者の方々や職員に声かけを行うこと。笑顔は自分の失うものは何一つないのに相手には安らぎを与え、周りを明るくします。入居者の方々には尊厳の心を忘れず、その方が歩いて来られた人生やご家族の思いなど全てを受け入れながら、様々な障害や認知症が進んでも職員も一緒に受け止めていきます。そしていつの時もその人がその人らしく心豊かに過ごしていただくよう日々努めて参ります。

私が今職員に伝えることは私の年代にならないと理解出来ない事も多いと思いますが、介護の業務を通じて達成感や生き甲斐を感じてくれた時に実感してもらえないのではないかと思います。新しい施設「きんかん」の立ち上げにも私の出来る事で関わり、地区の方々に喜んでいただけるように努めて参ります。

施設生活を楽しく



裕生園生活相談員
黒木 淳

裕生園に勤務して六年になります。介護職員を五年経験し、昨年の四月より生活相談員になりました。この六年間で大きく感じた事は「最後まで楽しく過ごして頂きたい」ということです。福祉をしていく上で「最後」というのは必ずやってきます。また、この六年間で何人もの利用者との別れがありました。その中で「楽しく過ごして頂けたかな」という思いや、「こんなことをしてあげたかったな」という振り返りをする事が多くありました。施設での暮らしはただ三大介助（食事介助、排泄介助、入浴介助）をするだけでなく、生活をするというごく当然の事を援助していくので、生活の中には楽しみもあり、我慢もあり、人とのトラブルもあり、様々な事があるからこそ生活援助だと思えます。その当然の生活をいかに楽しく、面白く暮らせるかは、私たち職員とご家族の協力の下で出来てくるものだと私は思います。

利用者の生活を援助することは簡単でなく、試行錯誤を繰り返して、他職種との連携を取ること、本人の生活の質に反映されます。その連携や、お互いの協力をつなぐパイプ役として私たち生活相談員がいます。まだ十ヶ月しか生活相談員としての仕事をしていませんが、重責を感じ、時には押しつぶされそうになる時があります。自分の未熟さを痛感することも多々あります。

生活相談員としてはまだまだ勉強することが山ほどありますが、一福祉人として笑顔あふれる裕生園での生活を送って頂けるように努力したいと思えます。

しんあい詩會

毎月一回、ケアハウスシャトルで行われている短歌会で発表された短歌の中から、いくつかをご紹介いたします。作者は、シャトル、裕生園及び信愛園の入居者の方々です。(氏名五十音順)

ふるさとの大丸橋のその下で

おぼれし人をわれ助けたり

岩切志知

同室の人が子を呼ぶ泣き声の

通ぜぬものか神や仙人

岩切志知

降り続く今宵蛙の初鳴きを

窓辺に聞きて夢に入りぬ

緒方信子

帰り路娘の運転に安らぎぬ

霧島山に白雲流る

緒方信子

つくばいのひとひらの葉が偲(しの)ばせる

遠き昔の茶庭の吾(われ)を

桐山みつる

「紅葉狩り(もみじがり)」「粹な言葉に誘われて

めでてみましょう紅(くれない)黄色

桐山みつる

空の青山の紺(あお)さはかはらねど

日々うつり行く我身の愛(かな)し

串間ミツ

花ひらき水せせらぎて鳥唄う

げに春らんまんの高岡の里

下田欣吾

蛇の目傘たたく雨音なつかしく

内なる人は美しからん

下田欣吾

出しもせず来る筈もない手紙待ち

ポストのぞくが日課となりぬ

花田暢子

水仙の香りがこもる玄関の

ドアを開ければ朝の気入る

花田暢子

遠くより我を案じて三人(みたり)来ぬ

嬉(うれ)し涙で手紙認(したた)む

松本マサ

晩秋の夜空に浮かぶ十五夜の

月の神秘に寒さ忘れる

松本マサ

霜の朝曇りガラスに金婚と

書いて祝わん昭和思いて

森田琢恵

ベランダに櫛(けやき)一葉舞い来たり

「冬仕度せよ」吾に告げんと

森田琢恵

『ひこばえ』第四十九号〜第六十一号のなかから

『しんあい』編集部が選びました。



伊藤一彦先生を囲んでの短歌会の様子

編

『しんあい』第二十二号がようやく出来上がりました。平成二十年度内に完成の予定だったのですが、新年度に入ってしまった。三月十八日にオープンした『きんかん小規模多機能ホーム』と満開の桜を一緒に写真でご披露できたことで、発行の遅れを許していただきたいと思います。『きんかん』そして『たちはなデザイナービズセンター』は、どちらも地域密着型のサービズ事業所です。地域にしっかりと根付いて、地域の皆さんに安心を持っていただけるような事業所を目指して参りますので、よろしくお願ひ致します。